

アロハスピリッツの夏

私には国際的に活躍するという漠然とした夢がある。研修前から、多文化社会であるハワイで異文化理解を学びたいと思っていたが、実際に現地で得た学びは将来への糧となり、自分のやりたいことを明確にしたいという思いが一層強まった。

1日目の市長表敬訪問で印象的だったのは「ハワイには多様な人々が本音で意見を交わせる場所が多い」という言葉である。私は研修中、それがどんな場所か意識して観察した。江戸川区と似て公園が多く整備されていた。ワイパフ高校では生徒が広大な敷地で交流していた。また物理的空間だけでなく、人々が他文化を受け入れる精神的な余裕もまた、その「場所」をつくっていると感じた。例えば、日本文化センターの資料館では、「OKAGESAMADE」「感謝」「恩」などの文字が出迎えてくれた。終盤には羽子板や雛人形、鯉のぼりといった日本文化が並び、日系人の努力とそれを受け入れたハワイの人々の姿勢が今も続いていると気づいた。

その精神は観光にも表れている。ダイヤモンドヘッドの頂上からの絶景と案内板に示された世界各国への距離は、ハワイが多くの人を惹きつける場所であることを象徴していた。火山や景観について学べるスポットも登山中の各所にあり、自然保護と観光の両立がなされていると思った。その両立は観光客を受け入れるハワイの人々の精神によって成り立っている。そして、

もちろん歴史には悲しい時期もある。戦艦ミズーリでは特攻隊の跡や降伏調印式の間を見学した。かつての戦いの記録を多国籍の人々の学びの場として残してくれていることは、平和を考える機会を与えてくれるものであり、そこにもアロハスピリッツを感じた。

また、ホストファミリーとの日々も大切な学びだった。同じ年のホスト学生徒は多忙なAPクラスの生徒だったが、初日から時間を割き、公園やビーチに連れて行ってくれた。ホストファミリーの皆さんは私たちに温かく迎え、美味しい料理を作ってくれ、外出時も快適な運転をしてくれた。多くの人々に助けられ、楽しい日々を過ごせたのはホストファミリーのおかげである。

今回の研修を通じ、ハワイと日本の良好な交流の根底にある受容的精神を学び、平和を守るため自分に何ができるかを考えることができた。すべての体験がハワイの人々の支えで成り立っている。ハワイの人々に恩返しとして、ハワイの平和を守るために何ができるか考えていきたい。

